

浜 松 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開催日時 令和5年7月26日(水)  
14時00分～17時05分
- 2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階  
教育委員会室
- 3 出席状況
- |          |         |
|----------|---------|
| 教 育 長    | 宮 崎 正   |
| 教育長職務代理者 | 安 田 育 代 |
| 委 員      | 黒 柳 敏 江 |
| 委 員      | 神 谷 紀 彦 |
| 委 員      | 鈴 木 重 治 |
- (職員)
- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 学校教育部長           | 奥 家 章 夫   |
| 学校教育部次長(教育総務課長)  | 山 本 卓 司   |
| 学校教育部次長(教職員課長)   | 河 合 信 寿   |
| 学校教育部参事(教育審議監)   | 小 畑 多 佳 子 |
| 学校教育部参事(教育施設課長)  | 山 本 治 之   |
| 指導課長             | 内 山 圭 子   |
| 市立高等学校校長         | 草 谷 篤     |
| 教育総務課学校・地域連携担当課長 | 鈴 木 健 一 郎 |
| 市民部文化振興担当部長      | 嶋 野 聡     |
| 博物館長             | 山 本 浩 史   |
| 指導課主幹            | 山 本 裕 司   |
| 指導課指導主事          | 松 本 真 美 子 |
| 指導課指導主事          | 寺 澤 潤     |
| 指導課指導主事          | 宮 原 愛     |
| 指導課指導主事          | 中 村 啓 太 郎 |
| 指導課指導主事          | 河 合 祥 悟   |
| 指導課指導主事          | 鈴 木 絵 美 子 |
| 指導課指導主事          | 水 野 広 大   |
| 指導課指導主事          | 前 田 浩 平   |
| 指導課指導主事          | 山 口 大 和   |
| 指導課指導主事          | 白 井 晃     |
| 指導課指導主事          | 武 田 伸 江   |
- (事務局職員)
- |          |         |
|----------|---------|
| 教育総務専門監  | 川 副 哲 士 |
| 教育総務課副主幹 | 澤 木 翔   |
| 教育総務課主任  | 若 澤 久 実 |

- 4 傍聴者 22名
- 5 議事内容 別紙のとおり
- 6 会議録作成者 教育総務課 若澤 久実
- 7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録  
録音の有無 無
- 8 会議記録

(教育長) 令和5年7月26日の浜松市教育委員会を開催する。  
傍聴についてはどうなっているか。

(事務局) 22人から傍聴申込をいただいている。

(教育長) 教育委員会室で傍聴する方が10人、別室でモニターにて傍聴する方が12人ということである。許可するというので、よろしいか。

(異議なし)

(教育長) 許可する。  
前回会議録の報告及び承認は回覧をもってお願いする。  
本日の会議録署名人は、鈴木委員と黒柳委員にお願いする。  
会期は本日限りである。  
本日は、議案が5件である。

(教育長) それでは、第39号議案「浜松市学校運営協議会規則の一部改正について」教育総務課から説明をお願いします。

(学校・地域連携担当課長) 第39号議案「浜松市学校運営協議会規則の一部改正について」説明する。提案理由について、現在の規定では、選任の範囲が学校区内に限られる学校運営協議会委員について、再任が1回に限られている。今後の持続可能な協議会運営の観点から、地域との信頼関係の構築が必要となる学校支援コーディネーターが委員の任期を満了する場合等を考慮し、規則の一部を改正するものである。改正内容は、委員の選任について、より柔軟な対応を可能とするため、再任回数の制限に係る規定を削除するものである。なお、学校運営協議会は、教育委員会の附属機関であるため、浜松市が定める「浜松市附属機関の設置及び運営に関する基本方針」の適用を受けることから、原則的には再任を1回に限る現在の取扱いに変更はない。施行期日は、公布の日からである。説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 本議案を承認してよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、承認する。次に、第 40 号議案「浜松市教職員住宅管理規則の一部改正について」教育施設課から説明をお願いします。

(教育施設課長) 第 40 号議案「浜松市教職員住宅管理規則の一部改正について」説明する。提案理由は、水巻寮教職員住宅の改築に伴い、規則の一部を改正するものである。水巻寮は昭和 50 年に建築され、老朽化が著しいことに加え、施設の構造上、プライバシーの確保がされない状況にあるため、令和 4 年度から建築工事を実施し、本年 8 月に完成する予定である。改正内容は、水巻寮教職員住宅の改築に伴い、貸付料が改定されるため、別表第 2 の一部を改正するものである。あわせて、水窪単身寮教職員住宅の位置を現在の正しい住所に改める。具体的には、水巻寮の教職員住宅の賃貸料の月額金額を 1,700 円から 4,800 円、加えて、水窪単身寮教職員住宅の位置を、浜松市天竜区水窪町奥領家 3716 番地の 1 から 3716 番地の 3 に改めるものである。また、附則に記載があるとおり、この規則は公布の日から施行するものである。ただし、別表第 2 の改正は、水巻寮完成後の令和 5 年 9 月 1 日から施行する。説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 水巻寮の部屋数と完成後の入居予定者数を教えてほしい。また、貸付料が 3 倍ほど上昇しているが、算定の根拠はどのようになっているか。また、入居者の家賃増にかかる負担は、各個人の負担となるのか。

(教育施設課長) 1 階が 8 部屋、2 階が 8 部屋の計 16 部屋である。8 畳の部屋のほか、キッチン・バス・トイレを備えた間取りである。現在の入居者数は 10 人で、9 月以降は 11 人となる予定である。また、貸付料は国家公務員宿舍法及び浜松市公舎使用料の算出基準等を参考に決定したものである。求め方は、専有面積に対して建物の経過年数を考慮した基礎額を掛ける方法で、これまでは相当古い建物であったため、貸付料がかなり低くおさえられていた。今回、貸付料が上がることで負担が増えるが、各入居者に説明をして納得してもらっている。

(安田委員) 現在は建築工事中ではないのか。

(教育施設課長) 現在、駐車場であった場所に新しい建物を建築している。9 月以降、

入居者が引っ越しを終えてから、旧寮の建物を解体する予定である。

(鈴木委員) 住所は規則が公布された当初から誤りであったということか。

(教育施設課長) 地番と居所での表示が統一されていなかった箇所があったため、修正したものである。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 本議案を承認してよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、承認する。次に、第 41 号議案「浜松市博物館協議会委員の委嘱及び解嘱について」博物館から説明をお願いする。

(博物館長) 第 41 号議案「浜松市博物館協議会委員の委嘱及び解嘱について」説明する。提案理由は、令和 6 年 6 月 30 日までを任期とする現在の博物館協議会委員が 1 名辞任することに伴い欠員が生じたため、新たに浜松市ページ TA 連絡協議会広報副委員長の高橋靖博氏を選任する。任期は、浜松市博物館条例により前任者の残任期間を引継ぐことから、議決日から令和 6 年 6 月 30 日となる。なお、解嘱者は、浜松市ページ TA 連絡協議会幹事の竹内誠人氏である。説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(鈴木委員) 資料は、選出区分として「家庭教育の向上に資する者」とあるが、条例によれば、協議会の委員は、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」と記載されている。

(博物館長) 鈴木委員のご指摘のとおりである。資料を修正する。

(鈴木委員) 博物館条例では、「協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、委員会が任命する」とある。資料に示す協議会委員には「学校教育及び社会教育の関係者」から選出された委員がいないが、その選出区分からの委嘱者はいないということか。

(博物館長) 鈴木委員のご指摘のとおりである。現在、委嘱している協議会委員は、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」から 2 名、「学識経験のある者」から 6 名で

ある。「学識経験のある者」として記載している安池真美氏の選出区分については、改めて確認する。

(教育長) 確認事項があるため、本議案については次回改めて説明するという事によろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、確認後、次回教育委員会にて改めて議案提出いただきたい。次に、第 42 号議案「令和 6 年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」市立高等学校から説明をお願いします。

(市立高等学校長) 第 42 号議案「令和 6 年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」説明する。まず、配付資料をご確認いただきたい。本議案は、議案の説明資料及び別紙 1 を使用して説明する。別紙 1 は教科ごとに令和 6 年度採択内申する教科書を一覧にした資料である。

高等学校の新学習指導要領は、令和 4 年度の高校 1 年生から学年進行で改訂されている。地歴公民科の「公共」や、「地理総合」・「歴史総合」の必修化をはじめ、従来と内容は大きく変わっている。令和 6 年度をもって高校 3 学年全てが新学習指導要領による教育課程となる。

なお、高校における教科書採択は、毎年度各学校において検討されている。本校の教科書採択手順は、議案の説明資料の下の図のとおりである。各教科会において比較検討、内申教科書の選択を行い、その後、管理職、教科主任及び教務課担当で構成される「教科用図書採択委員会」において、慎重な検討・審議の結果、学校としての内申教科書を選定している。

各教科の説明に入る前に、別紙 1 の見方を説明する。例として国語の採択資料をご覧いただきたい。左側から、学年欄は、1 年生から 3 年生までの学年数を示している。さらに発行者の略称は、教科書発行者名を表示、記号は科目名、書名は教科書名を示している。今後は、通し番号 3 の 2 年生の論理国語は、明治書院の「精選 論理国語」を採択する、といった説明をさせていただく。表の中央の採択理由に示す項目の詳細は、別紙 1 資料 27 ページに記載したとおりである。一番右側には主な採択理由を記載している。

今回の教科書採択は、1 年生 18 冊、2 年生 25 冊、3 年生 16 冊であり、合わせて 59 冊である。59 冊のうち 7 冊が新規の採択内申であり、別紙 1 一覧表に星印で示している。また、別紙 1 一覧表の「継続使用」欄に黒丸印で示されている教科書は、令和 4 年度または令和 5 年度に既に使用している教科書であり、令和 6 年度においても継続して使用するものであることを示している。概要についての説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、審議に入る。審議は、1教科ずつ行い、各教科の説明後、ご意見・ご質問をうかがう形で進行する。それでは、国語科について説明をお願いします。

(市立高等学校長) はじめに、国語科から説明する。昨年度採択決定され、既に生徒が使用している継続使用の教科書を除き、今年度採択する教科書6冊について説明する。

1年生の「現代の国語」と「言語文化」は大修館の教科書を、2年生の「論理国語」は明治書院の「精選 論理国語」、「文学国語」は東京書籍の「文学国語」、「古典探究」は大修館の「古典探究(古文編)」「古典探究(漢文編)」を採択内申する。採択理由は、別紙1の主な採択理由をご覧ください。国語科については以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、国語科に関する質疑を終了し、採決に入る。国語科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、地歴公民科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 続いて地歴公民科について説明する。地歴公民科は全部で11冊であり、継続使用の3冊を除いた8冊について説明する。

1年生の「地理総合」は、帝国書院の「新地理総合」、「地図」は「新詳高等地図」を、「歴史総合」は第一学習社の「歴史総合」を、2年生の「地理探究」は帝国書院の「新詳地理探究」を、「世界史探究」は山川出版社の「詳説世界史」を、「日本史探究」は、同じく山川出版社の「詳説日本史」を、「公共」は東京書籍の「公共」を、また、3年生の「政治・経済」は東京書籍の「政治・経済」を採択内申する。3年生の「政治・経済」は新規採択である。総合的にみて構成・内容・程度・分量などのバランスがとれ、配慮の行き届いた使いやすい教科書であることが採択理由である。また、本校生徒の学力等に鑑みて学びやすさなども考慮している。地歴公民科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、地歴公民科に関する質疑を終了し、採決に入る。地歴公民科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、数学科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に数学科の教科書6冊について説明する。

1年生で使用する「数学Ⅰ」「数学A」「数学B」の3冊、2年生で使用する「数学Ⅱ」「数学C」の2冊、3年生で使用する「数学Ⅲ」について、全て数研出版の教科書を採択内申する。採択理由は別紙1のとおりである。新規採択内申する「数学Ⅲ」は、例題や内容の配列が指導に生かしく、定理や公式の説明が丁寧で生徒が学習しやすい構成であることが主な採択理由である。3年間を通して同じ教科書会社とすることで、継続した学習指導が可能になることから、生徒・教員の双方に利点があることも考慮した。数学科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 昨年度の3年生が使用していた教科書の発行者はどこか。

(市立高等学校長) 昨年度も数研出版の教科書を使用している。ただし、内容は旧課程のものであったため、今年度採択内申している教科書とは異なる。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、数学科に関する質疑を終了し、採決に入る。数学科について、内申書の教科書を採択することでのよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、理科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に理科の教科書12冊のうち、継続使用の4冊を除いた8冊について説明する。通し番号4と6の「化学基礎」は同じ教科書であるため、実質11冊のうちの7冊について説明する。1年生の「物理基礎」と「生物基礎」、2年生の「物理」「化学基礎」「化学」「生物」はいずれも数研出版の教科書を、2年生文系選択科目の「科学と人間生活」は東京書籍の教科書を採択内申する。採択理由は別紙1のとおりである。理科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、理科に関する質疑を終了し、採決に入る。理科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、保健体育科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に保健体育科の教科書2冊のうち、継続使用の1冊を除いた1冊について説明する。1年生の保健体育科は、昨年度から継続使用している2年生の教科書と同様、大修館の教科書とする。採択理由は別添1のとおりである。保健体育科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、保健体育科に関する質疑を終了し、採決に入る。保健体育科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、芸術科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に芸術科の教科書10冊について説明する。

1年生について、「音楽Ⅰ」は教育芸術社、「美術Ⅰ」は日本文教出版、「書道Ⅰ」は2冊あり、どちらも教育図書の教科書を採択内申する。2・3年生の選択科目の「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は、系統性を重視して、今年度の1年生と同じ出版社の教科書を採択内申する。採択理由は別添1のとおりで、同じ出版社の教科書を使用することで、扱う教材や作品に偏りが無いという利点がある。

また、3年生の選択科目の「音楽Ⅲ」「美術Ⅲ」「書道Ⅲ」についても、1・2年生と同じ出版社の教科書を新たに採択内申する。教育芸術社の「音楽Ⅲ」は、音楽Ⅱからの学びをさらに深められるように、伝統的な表現・鑑賞作品が多く取り上げられ、音楽をより専門的に学ぶ前段階に適している教科書である。日本文教出版の「美術Ⅲ」は、芸術としての美術を意識させるような内容となっており、近現代の作家を多く取り上げ、堅苦しい美術の印象がなく、生徒が興味関心を持つことができる内容になっている。教育図書の「書道Ⅲ」は、鮮明な資料が豊富で、鑑賞分野の知的好奇心を引き出す工夫がされている。書道Ⅱからの系統的・発展的な学習が進められるような展開で、発展的な学習を好む本校生徒の実情に適している。芸術の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(黒柳委員) 今回新たに採択内申する3冊は、1・2年生で使用する教科書と同じ発行者とすることで、3年間通して系統的に学べるようにしたということか。

(市立高等学校長) 教科書を揃えることにより1・2年生で学んだことをさらに系統立てて、あるいは発展的に学びを深められるように、同じ教科書発行者をそれぞれ採択内申した。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、芸術科に関する質疑を終了し、採決に入る。芸術科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、英語科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に英語科の教科書6冊について説明する。

1年生の「英語コミュニケーションⅠ」は桐原書店を、「論理・表現Ⅰ」はいいずな書店を、2年生の「英語コミュニケーションⅡ」は桐原書店を、「論理・表現Ⅱ」はいいずな書店を採択内申する。採択理由は別紙1のとおりで、指導の継続性という点も考慮している。また、3年生の「英語コミュニケーションⅢ」は桐原書店、「論理・表現Ⅲ」は三省堂をそれぞれ新たに採択内申する。桐原書店の教科書は、通読用のページがあり、速読して要点をつかませる指導がしやすく、アプリ等デジタル教材が充実している。話題が興味深く、関連した他の教材・文章や活動が加えやすい点も採択理由である。三省堂の教科書は、生徒に身につけさせたい文法項目や表現事項が整理されており、QRコードで各自音声を聞くこともできる。練習問題や例文の質や量も本校生徒に適していることが採択理由である。英語科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(神谷委員) 3年生で使用する「論理・表現Ⅲ」は、新規で三省堂の教科書を採択内申している。指導の継続性という点で採択内申している1・2年生のいいずな書店の教科書とは別の発行者になる。新たに三省堂の教科書を評価した理由をもう少し詳しく説明してほしい。

(市立高等学校長) 別紙1の採択理由にも記載しているとおり、QRコードで各自音声を聞けるなど、大学入試に向けて生徒が実力をつけるという点で非常に適しているという判断のもと、来年度から新たに採択内申するものである。

(神谷委員) 他の教科書と詳しく比較していないが、QRコードで音声を聞けるという点を評価したということか。

(市立高等学校長) リスニング対策という点を比較した結果、三省堂の教科書が非常に充実していたということである。

(安田委員) 昨年度の3年生が使用していた教科書の発行者はどこか。

(市立高等学校長) 昨年度は、旧課程の「英語表現Ⅱ」において、いづな書店の教科書を使用している。今回新たに採択内申した「論理・表現Ⅲ」は、新課程から設けられた科目である。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、英語科に関する質疑を終了し、採決に入る。英語科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、家庭科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 次に家庭科の教科書1冊について説明する。1年生で全員履修する「家庭基礎」は、教育図書教科書を採択内申する。採択理由は別紙1のとおりで、男女ともに学習内容に興味関心を持ちやすいよう内容構成が工夫されている点や、課題解決的な学習が意図されており、主体的な学習活動が期待されることが採択理由である。家庭科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 昨年度は家庭科の教科書を2冊採択内申していたが、今年度は1冊のみということで科目が減ったということか。

(市立高等学校長) 昨年度採択内申した「ファッション造形基礎」は旧課程の科目である。令和6年度からは新課程となり、「ファッション造形基礎」という科目が無くなっている。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、家庭科に関する質疑を終了し、採決に入る。家庭科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。最後に、情報科の説明をお願いします。

(市立高等学校長) 最後に、情報科の教科書1冊について説明する。本校では「情報Ⅰ」を2年次で全員履修する。実教出版の教科書を採択内申する。採択理由は、別紙1のとおりである。情報科の説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(神谷委員) 検定済年が新しい方が最新の内容に更新されている印象だが、令和3年度検定済みの教科書を採択内申する理由は何か。

(市立高等学校長) 情報Ⅰの教科書については、令和3年度検定済みのものが最新のものである。

(教育長) そのほかご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、情報科に関する質疑を終了し、採決に入る。情報科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。以上で、令和6年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択を終了する。次に第43号議案「令和6年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」指導課から説明をお願いします。

(指導課長) 第43号議案「令和6年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」説明する。最初に、中学校で使用する教科用図書について説明する。資料41ページをご覧ください。中学校で使用する教科用図書の採択について、令和5年度

においては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条」の規定に基づき、令和 4 年度に採択したものと同一の教科書を採択することとなっている。したがって、中学校においては、表 1 の令和 4 年度に採択し令和 5 年度に使用している教科用図書と同一のものを使用することとなる。中学校で使用する教科用図書についての説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、中学校の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。令和 6 年度使用浜松市中学校の教科用図書について、令和 4 年度に採択し、令和 5 年度に使用している教科書と同一のものを採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。続いて、小学校の教科書採択案について説明をお願いする。

(指導課長) 次に小学校において使用する教科書の採択について説明する。資料 42 ページをご覧ください。図 2 のとおり、小学校は、全ての教科の採択替えの年度となっている。静岡県内は 11 の採択地区に分かれており、浜松地区では、「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿って「浜松地区教科用図書選定委員会」及び「浜松地区教科用図書研究委員会」を立ち上げ、資料 43 ページのとおり、調査研究を行ってきた。調査研究においては、44 ページに示す『浜松市における調査研究の観点』を盛り込みながら、研究報告書がまとめられた。

第 2 回浜松地区教科用図書選定委員会では、研究委員会からの「調査報告」を受け、慎重に協議した上で、浜松市の子供の学びにふさわしいと思われる採択案が資料 45 ページのように示されている。なお、この教科書採択は、公正性・透明性を重要視し、教科書発行者など外部からの働き掛けにより、採択が歪められたなどの疑念が抱かれることのないよう、静ひつな採択環境の確保が求められる。よって、7 月 12 日の第 2 回浜松地区教科用図書選定委員会に至るまでの作業においては、委員会の委員名や、委員会開催日等、全て極秘で行った。また、研究に使用する教科書見本については、発行者名をマスキングした状態で行った。

教育委員の皆様には、7 月 20 日の「教科用図書学習会」において、浜松地区教科用図書研究委員会が作成した「調査研究報告書」を確認しながら、全ての発行者の教科書を手に取り、十分な時間をかけてご覧いただいたところである。本日も、委員の皆様の上には、教科書を用意している。ただ今から採択案を基に、令和 6 年度から小学校で使用する教科書を審議・決定していただきたい。なお、県が示す採択指導の基本方針に則り、教科書展示会でのご意見や各小学校巡回見本における調査研究報告書

も必要に応じてご覧いただくことが可能である。

それでは、浜松地区教科用図書選定委員会委員長により建議されている「採択案」について、ピンク色の表紙の「研究報告書」を基に、各者の教科書の特徴と推薦理由を指導主事から説明する。説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。審議は、1教科ずつ行い、各教科の説明後、ご意見・ご質問をうかがう形で進行する。それでは、国語科について説明をお願いする。

(指導課指導主事) 国語科では、3者の教科書の研究結果を順に報告する。最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①6年152ページをご覧いただきたい。問題となっているプラスチックごみの話題を取り上げた教材文が掲載されている。東京書籍は、児童が直面しそうな喫緊の社会問題について考える教材文が多く掲載されているのが特徴である。さらに、教材文の最後に掲載されている二つの資料を併せて読むことで、複数の情報を関係付けて読む力を身に付けることができるように配慮されている。加えて、その後には、学習指導要領の「情報の扱いに関する事項」との関連が図られた「情報のとびら」(2年以上)のページが設けられている。このように身近な話題を取り上げた教材文と資料とを併せて学習することで、必要な情報を取捨選択する知識及び技能を身に付けることができるようになっている。付箋A②1年上58ページをご覧いただきたい。1年の学習の始まりにあたって、習得が難しいと言われる促音や長音、拗音などの学習に、発達支援の知見から生まれた動作を通して体感的に音韻感覚が身に付く指導法が取り入れられている。

次に、「B教育出版」について説明する。付箋B①5年下36ページをご覧いただきたい。宮沢賢治の「雪わたり」が掲載されている。この作品は26ページにおよぶ長文である。教育出版の教材文は、他者に比べて文章量、情報量の多い文章を採用していることが特徴である。これらの教材文を学ぶことで、多くの幅広い表現に触れることができ、豊富な語彙や表現力の獲得につながる。付箋B②6年上36ページをご覧いただきたい。この單元では、教材文の中に、グラフや図、写真が豊富に取り入れられており、それらを文章と結び付けて読む力を身に付けることができる。さらに、短い教材と長い教材を組み合わせ掲載しており、習得・活用のサイクルの中で、児童が確実に学習内容を身に付けられるよう工夫されている。その他にも、2年の教科書上50ページの「かんさつ発見カード」では、国語科で身に付けた「書くこと」に関する力を、生活科で生かせるような教材が取り入れられる等、国語科の学習が他教科でも生かされるよう、学習時期にも配慮して配列されている。

次に、「C光村図書」について説明する。付箋C①2年上6ページをご覧いただきたい。「国語の学びをみわたそう」では、学習の進め方を明示し、学び方を意識して取り組めるよう工夫されている。また、既習事項を押さえた上で、本学年で学ぶ内容が示されているため、見通しを持って学ぶことができる。付箋C②5年149ページをご覧いただきたい。この單元では、「情報の扱いに関する事項」の力が、学習内容と関連させて意識的に学べるように工夫されている。この教材もそうであるように、全学年を通して、複数の領域の力を生かして学ぶ複合單元が設定されている。ここでは、教材

文で育成した「読むこと」に関する力を生かし、自分の考えを書く力が育成されるといった相乗効果が図られるよう工夫されている。付箋C③6年 131 ページをご覧ください。考えを整理したり、広げたりするための方法を紹介している。考えや情報を構造的に整理するための方法を学び、使えるようになることで、国語科だけでなく他教科の学習にも生かせるような配慮がされている。光村図書は、児童にとって読みやすいユニバーサルデザイン書体を使用している。また、思考を補助する挿絵や写真を効果的に配置する工夫が見られる。光村図書は、児童が学ぶ楽しさを味わいながら、国語科で学んだことを他教科や生活に生かすことができる構成になっていることが特徴である。

以上、3者とも優れた教科書となっているが、選定委員会では、「C光村図書」の教科書が浜松地区の教科書としてふさわしいと判断され、採択案となっている。その理由として、①主体的・対話的に学んでいく過程を重視している点、②国語科で学んだ力を生かし、他教科や日常生活に生かそうと意識できる点、③児童に問いを持たせたり、児童同士の関わりを深めたりすることができる教材や資料等が豊富に使われている点の3点が挙げられる。国語科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 複合単位とは、具体的にどのような単位・教材を指すのか。

(指導課指導主事) 6年生の教科書 155 ページでは、筆者の工夫を捉えて読む、それを生かして書こうということで、「鳥獣戯画を読む」という教材を読んだ後、「発見日本文化の魅力」を学ぶような進め方になっており、資質・能力のつながりなどがよく検討されていて、子供たちの力を付ける相乗効果になると聞いている。

(黒柳委員) 光村図書では、ユニバーサルデザイン書体が使用されているという説明であったが、他の2者はどうか。

(指導課指導主事) 他の2者についてもユニバーサルデザイン書体が使用されているが、光村図書では、書体が統一されており、色合いや情報量など全てを総合的に見て、ユニバーサルの面から考えてもふさわしいと選定されたと聞いている。

(安田委員) 東京書籍の1年生の教科書では促音や拗音、長音などの学習において、体感的に音韻感覚を身に付ける配慮があるとの説明であったが、他の2者ではどのように学習するのか。

(指導課指導主事) 他の教科書では、丸と黒丸などの記号でリズムを示すなどの手立てがとられているが、体の動きと併せて学習する方法は、東京書籍のみである。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、国語科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。国語科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、書写の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 書写では、3者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①6年42ページをご覧ください。2年以上の教科書には「書写のかぎ」として学習したことに関する大事なポイントが分かりやすく書かれている。付箋A②5年24ページをご覧ください。「生活に広げよう」「学びを生かそう」で、書写の学びを他教科の学習につなげる工夫がされている。1年「かきやすいもちかた」では、鉛筆の持ち方の写真が大きく掲載され、左利きの児童にとっても学びやすくなっている。

次に、「B教育出版」について説明する。付箋B①3年20ページをご覧ください。毛筆で書いたときに穂先の通る部分が、大変分かりやすく示されている。付箋B②5年42ページをご覧ください。各教科や特別活動、日常生活と関わる教材を掲載し、学んだことを実践的に生かす機会が持てるよう配慮されている。この他にも、手紙やはがきの書き方の教材が全学年で掲載されている。

次に、「C光村図書」について説明する。付箋C①1年14ページをご覧ください。1年の平仮名の学習では、とめ、はね、はらいなどの筆使いを擬態語・擬音語で表し、児童が感覚的に理解できるよう工夫がされている。書写学習が始まる1年と毛筆学習が始まる3年に「スタートブック」を取り入れ、イラストや写真を豊富に用いて学習の進め方を丁寧に説明している。付箋C②632ページをご覧ください。「書写広げたい」を設けて、書写での学びを他教科や日常生活に生かせるよう工夫されている。

以上、3者とも優れた教科書となっているが、選定委員会では、「C光村図書」の教科書が浜松地区の教科書としてふさわしいと判断され、採択案となっている。

その理由として、①学習の進め方を分かりやすく示すことで、学習習慣が身に付きやすいように配慮されている点、②スタートブックを掲載し、基礎的な知識及び技能が確実に身に付くように工夫されている点、③書写での学びが他教科や日常生活に広がるような構成になっている点の3点が挙げられる。書写の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、書写の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。書写について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、社会科の説明をお願いする。

(指導課指導主事) 社会科では、3者の教科書の研究結果を順に報告する。最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。深い学びの鍵となる社会的な見方・考え方について、児童に親しみのあるアニメキャラクターを使用して四つのマークで分かりやすく示し、どの見方・考え方を働かせればよいか明確になっていることが大きな特徴の一つと言える。付箋A②をご覧ください。「まなび方コーナー」では、「見る・聞く・ふれる」や「よみとる」など学習場面に応じた技能を示し、児童が自分で学習を進めていきながら習得できる工夫がされている。付箋A③をご覧ください。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が具体例を通して示され、問題解決的な学習に自分で取り組むことができる。また、「調べる」の方法、見方・考え方の提示が、学年の発達段階に応じた内容になっており、他学年との系統的な関連が見られる。そして、「まなびポイント」で学習活動を示しており、深い学びにつながる効果的な活動が期待できる。付箋A④をご覧ください。「火事からくらしを守る」の単元において、浜松市の資料が12ページにわたり掲載されている。児童が身近な問題として捉えながら、単元を通して学習を進めることができる。大きな見開きとなっている付箋A⑤をいただきたい。資料を比較して考える学習では、学習が効果的に進められるよう、レイアウトや配色などが配慮されている。

次に、「B教育出版」について説明する。付箋B①をご覧ください。社会的な見方・考え方をキャラクターの吹き出し中に太字で示し、分かりやすく示している。付箋B②をご覧ください。単元の終わりでは、思考ツールを基にした対話の場面などが設定され、多角的に考える活動を通して、必要な情報を選択・判断する力の育成が図られている。付箋B③をご覧ください。問題解決的な学習の流れを「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」のサイクルで、分かりやすくまとめられている。「次につなげよう」から各時間の問いがつながり、単元を通して一貫した追究が進められるように工夫されている。付箋B④をご覧ください。「わたしたちの暮らしを支える政治」の単元では、浜松市の取組が紹介され、8ページにわたりまとめられている。付箋B⑤をご覧ください。6年の歴史学習では、白黒写真をカラー化し、当時の出来事を自分のこととして捉えられるように工夫されている

次に、「C日本文教出版」である。付箋C①をご覧ください。社会的な見方・考え方について「空間」「時間」「関係」の三つの視点の記号で示し、児童が見方・考え方を働かせながら学習を進めていくことのできる工夫が見られる。付箋C②をご覧ください。単元の終わりに交流や発表の仕方等を具体的に例示しており、まとめる技能が身に付くように工夫されている。付箋C③をご覧ください。学習過程を「問

題を発見する力」「問題を追究・解決する力」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力」の三つの段階に分けて示しており、児童が見通しを持って学習に取り組むことができる。付箋C④をご覧ください。「学び方・調べ方コーナー」など、多くの学習場面で学び方や調べ方が身に付くような工夫がされている。また、このページのように単元の導入場面において見開き2ページを使って写真やイラストを大きく掲載し、児童の興味・関心を引き出し、学習問題を見だしやすくする工夫がされている。

以上、3者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では「A東京書籍」が採択案となっている。その理由として、①学びを深める鍵である見方・考え方が効果的に示されている点、②社会科として重視すべき問題解決的な学習過程について、具体例を通して分かりやすく明示されている点、③発達段階を考慮し、興味・関心を引き出す資料が充実している点の3点が挙げられる。社会科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 教科書の中に自分たちが住む浜松市の写真が掲載されているのは、学習する子供たちにとってうれしいことではないか。自分の街を誇らしく思えるような学習につなげていただきたい。

(指導課指導主事) そうした点を生かした授業となるよう努めていきたい。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、社会科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。社会科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、地図の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 地図では、2者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。地名表記を大きめのユニバーサルフォントで縁取りして示し、都道府県の境界線を明瞭化するなど、児童にとって見やすい表記となるような工夫がされている。付箋A②をご覧ください。オリンピックやワールドカップ開催都市の地図や南北を逆転させた世界地図等、各種テーマごとの地図が充実しており、歴史や伝統、異文化等の理解につながることを期待できる。付箋A③④をご覧ください。特産物や人物、食文化、文化財などを、親しみやすいイラストや鮮明な写真で表示しており、児童の発達段階に

応じて学習意欲を引き出す工夫がされている。

次に、「B帝国書院」について説明する。付箋B①をご覧いただきたい。全ての児童にとって活用しやすいユニバーサルデザインを意識し、レイアウトや色彩表現など、細部まで見やすく分かりやすい地図となっている。付箋B②③をご覧いただきたい。「地図のやくそく」では、方位、地図記号、土地利用について分かりやすく解説し、「トライ」で地図に関する問題が挙げられ、初歩的な地図の使い方について説明されている。また、「地図マスターへの道」が100問掲載され、問題を解く活動を通して地図に触れることで、地図や統計資料から学ぶことができるようになっている。付箋B④をご覧いただきたい。児童の発達段階に応じた、親しみやすいイラストや会話形式を取り入れた地図学習の導入になっている。また、浜松市を例に「地図帳の使い方」を見開き2ページを使って説明し、縮尺の説明を合わせて6ページにわたって浜松を中心とした地図を利用している。

以上、2者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では「B帝国書院」が採択案となっている。その理由として、①必要な情報が精選された紙面である点、②地図の基本的な概念や技能を詳細に明示している点、③発達段階に応じた親しみやすい内容や表現方法を取り入れている点の3点が挙げられる。地図の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(黒柳委員) 小学校3年生から6年生まで使用するため、やはり見やすいものがよい。自分の住む地域が掲載されているのは、使い方や見方を学ぶ際に意欲につながるし、よいきっかけになるのではないか。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、地図の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。地図について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、算数科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 算数科では、6者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧いただきたい。「今日の深い学び」では、学んだことを振り返りながら課題をつかみ、次のページを開くと、自分の考えと他者の考えを比較できるよう複数の考えを提示している。そのため、問題解決の際に、共通点を見つけたり、学んだことが他の条件のときでも成り立つか考え

たりすることができるようになっている。次に、付箋A②をご覧いただきたい。浜松市の児童が苦手としている「データの活用」では、自分たちの生活を見直すことを課題として、データを分類整理し、その特徴から結論を出したり新たな課題を見つけたりすることができる。

次に「B大日本図書」について説明する。付箋B①をご覧いただきたい。「じっくり深く学び合おう」では、38 から 41 ページまでの間で、問題をつかみ、いくつかの考えを比較し、それぞれの考え方の共通点を見つける活動が示され、協働的な学びがイメージしやすくなっている。次に、付箋B②をご覧いただきたい。折り込みを開くと、「ひらめきアイテム」として、単元で学んだ数学的な見方・考え方を、中学年まではシールを貼って、高学年では穴埋め形式の枠に自分で書き込んでまとめられるようになっている。そのため、いつでもそこに戻って振り返ったり、活用したりできるようになっている。

次に「C学校図書」について説明する。付箋C①をご覧いただきたい。単元の代表的な見方・考え方を「考え方モンスター」としてキャラクター化して示すことで、問題解決の視点を児童が意識できるようにしている。さらに、全学年で働かせたい数学的な見方・考え方を九つに整理し、一覧に提示することで、常に児童の考えを助ける手立てになっている。付箋C②をご覧いただきたい。これも本市の児童が苦手としている5年「割合」の学習では、「算数パトロール隊」において、児童が間違えやすいと思われる例を示すことで、割合の表し方やもとにする量の考え方について課題をとらえ、深い学びができるようになっている。

次に「D教育出版」について説明する。付箋D①をご覧いただきたい。88 ページ下の「はてな」や90 ページ下の「なるほど」により、児童の思考を教材の中心となる考え方に導く工夫がなされている。また、同ページ下の「だったら」で思考をさらに広げ、児童同士の対話が生まれやすい視点を提示している。付箋D②をご覧いただきたい。単元の前半で見いだした数学的な見方・考え方を「つながるミカタ」で整理して示し、後半の学習で自ら活用していくことで、数学的な見方・考え方の働きを実感しやすくなっている。付箋D③をご覧いただきたい。正多角形の性質の理解を深めるために、プログラミングで図形を描く活動が設定されている。これにより、自分が意図する一連の活動を実現するためにどのような動きを組み合わせればよいか、論理的に考えていく力を育成することができる。

次に「E新興出版社啓林館」について説明する。付箋E①をご覧いただきたい。どの学年でも、導入の課題が単純化されていて、児童が課題を掴みやすくなっている。また、めあてやまとめが明記されていて、本時の活動の見通しが持てる。付箋E②の目次のページをご覧いただきたい。本市の児童が苦手としている分数の学習を③「分数×整数、分数÷整数」④「分数×分数」⑤「分数÷分数」と単元が連続して配置されていて、共通する数学的な見方・考え方を繰り返し働かせられるような工夫がされている。

次に「F日本文教出版」について説明する。付箋F①をご覧いただきたい。測定の領域の算数的な活動例が充実しており、重さの単元では、36 から 40 ページにわたって、直接比較から間接比較へ向かう活動を丁寧に扱っている。これにより、児童にと

って自然な流れで、積み木いくつ分などの任意単位の手軽さや、「g」や「kg」のような普遍単位の必要性を感じられる学習の流れになっている。付箋F②をご覧ください。掛け算と割り算の学習を別々の単元として学習した後、掛け算なのか割り算なのかを判断する課題が設定されている。そのため、児童が式の意味を理解することの大切さを感じることができ、数学的な処理の便利さにつながる工夫がされている。

以上、6者とも優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「D教育出版」の教科書が採択案となっている。その理由としては①児童の思考に沿った問題解決のサイクルになっている点、②数学的な見方・考え方が働く工夫がなされている点、③複数の資料が関連付けやすい紙面の工夫がなされている点の三つが挙げられる。算数科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) どの教科書にも書き込みスペースがあるが、小学校算数科ではよく使用するのか。

(指導課指導主事) その点は選定委員会でも話題になったと聞いている。低学年では、その場所にブロックを置いて操作できる、書き込めるということが有効であるという話も出たが、高学年になるにつれてノートに自分の考えをまとめていくことができるようになるため、書き込みスペースを特に重要視して採択案をまとめたということではなかったと聞いている。

(黒柳委員) 教育出版社の教科書の中の文字がやや薄く感じる。他の発行者の教科書と比べて、数字は濃く見えるが、文字が薄いように感じるがそうした報告はあったか。

(指導課指導主事) そのような報告は、特になかったと聞いている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、算数科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。算数科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、理科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 理科では、6者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。各単元の

学習の発展的な内容として、「理科の世界・たんけん部」では、実生活の中で生かされている内容や、職業に関わる内容について多く取り上げ、児童に理科を学ぶ必要感と実感を伴った理解が得られるように工夫されている。付箋A②をご覧ください。SDGsのマークが、巻末に一覧で示されている。発達段階を考慮しつつ、丁寧な記述をしている。

次に、「B大日本図書」について説明する。付箋B①をご覧ください。「てこのはたらき」の単元の最初において、力点や作用点の位置を変えたときの手応えがどう変化するか、児童が試行錯誤しながら調べ、てこが水平につり合うときの規則性について問題を見だし、解決していく構成になっている。付箋B②と次ページをご覧ください。「〇〇のコツ」という表記がある。どの学年でもこの「〇〇のコツ」が取り扱われており、理科の学び方を学ぶことを重視している。1ページめくると、「考察」の場面があり、「結果からいえることを話し合しましょう」と表記されて、対話的な場面のイラストが掲載されている。このことから、自然と対話的な学びの実現に導かれ、学びを深めていくことができる構成となっている。付箋B③から2ページほど、めくってご覧ください。単元の終わりにある「作ってみよう」「たしかめてみよう」「学んだことを生かそう」で、知識の習得から活用までを意識したつくりになっている。また、「りかのたまてばこ」で豊富な資料が紹介されている。このように、学習後の発展的な内容が充実しており、実感を伴った理解や「なぜ」を促すことができ、理科が好きな児童を増やせるような工夫がなされている。

次に、「C学校図書」について説明する。付箋C①をご覧ください。問題を科学的に解決する過程を重視し、各単元で特に付けたい力を「できるようになりたい」と題して明示している。付箋C②をご覧ください。単元の振り返りの場面でも「できるようになった」と題して、児童が単元の最初に示した力が付いたのかを振り返ることができるつくりになっている。具体的な様子も示されており、児童が付いた力と学習内容とを結び付けて考えられるようになっている。

次に、「D教育出版」について説明する。付箋D①をご覧ください。理科の見方・考え方を「見方のカギ」「考え方のカギ」として紹介している。それらが各単元のキャラクターの吹き出しの中に示されており、さらに色付けされているため、児童の意識が高まる工夫がされている。

次に、「E信州教育出版」について説明する。付箋E①をご覧ください。実験器具の取り扱い方が、実際に扱う場面のページに掲載されている。このように、児童が安心して実験に取り組むことができるように配慮されている。

最後に、「F新興出版社啓林館」について説明する。付箋F①をご覧ください。巻末で「理科の見方・考え方」を分かりやすく説明している。また、その見方・考え方が日常生活とつながる例を児童にも分かりやすく表現している。さらに、単元ごとのキャラクターの吹き出しに下線が引かれ、より意識するように工夫している。付箋F②をご覧ください。「With Earth」や「くらしとリンク」という形でSDGsや防災、理科の学習と日常生活とのつながりを意識したつくりとなっており、児童の興味・関心を高めていくような配慮がされている。

以上、6者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「B大日本図書」が採

択案となっている。その理由として、①問題発見の過程を重視した構成となっている点、②対話的な学びを通して妥当な考えを創り出せる構成となっている点、③理科に係る知的好奇心を促す資料が充実している点の3点が挙げられる。理科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 理科の教科書は、発行者によって教科書の大きさが様々である。調査研究の際は、教科書を開いたときの大きさという視点での話題はあったか。

(指導課指導主事) 研究委員会では、A4サイズで作った場合は、行間や文字の大きさに比較的余裕があり、見やすいつくりになっている。教科書のサイズが小さくなると、1ページあたりに情報量が詰まっているように見えてしまうため、見やすさという点の方が優先されるべきではないか、というような話があったと聞いている。

(神谷委員) 大日本図書の教科書は、他の教科書に比べて動画を見せる二次元コードが多いと感じる。実際に授業の中では、どのように使われているのか。

(指導課指導主事) 研究委員会においても、二次元コードの使用について意見交換があったと聞いている。理科では、あくまでも実体験を重視して、実感を伴った理解を促すことを最優先としている。ただし、体験が難しい場面や、長期間継続して観察することによる変化を短期間でまとめて見せる場面など、状況に応じて使い分けることが有効だと聞いている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、理科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。理科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、生活科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 生活科では、7者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧いただきたい。児童の思いや願いを大切にされた課題が観点別にマークで示され、主体的な学びを支えている。また、多様な表現で気づきを伝え合う活動を示したイラストが対話的な学びを促すとともに、新たな気づきが生まれる深い学びへとつながっている。付箋A②をご覧いた

だきたい。掲載されている植物の種類が多く、浜松市のどの地域の学校でも、育てる植物を選択して取り組むことができるようになっている。付箋A③をご覧ください。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目や具体例が示され、幼児期の学びを視野に入れた指導・支援が、適切に実施できるよう配慮されている。

次に、「B大日本図書」について説明する。付箋B①をご覧ください。躍動感のある活動写真やイラストで、児童の興味・関心を刺激し、活動への意欲や期待を引き出すことができる。付箋B②をご覧ください。継続的な栽培活動や育てた野菜を味わう活動により、児童の意欲の継続や食について考えるための工夫がされている。

次に、「C学校図書」について説明する。付箋C①をご覧ください。「ものしりずかん」が別紙ではなく、単元の中に組み込まれているため、使いたいときに活用することができ、児童の関心や発展的思考を促す工夫がされている。付箋C②をご覧ください。「ものしりノート」には、具体的な活動をイメージし、見通しを持って活動するためのヒントが盛り込まれている。

次に、「D教育出版」について説明する。付箋D①をご覧ください。「学びのポケット」には他教科名が明示され、合科的・関連的な学習となるよう、配慮されている。付箋D②をご覧ください。各単元の最初に、「わくわくスイッチ」が設けられ、児童の多様な思いに対応する学びを保障する工夫がされている。

次に、「E信州教育出版社」について説明する。付箋E①をご覧ください。伝統的文化や家庭生活、四季の風景などの写真や挿絵が多く、地域や身近な人とのつながりについて気付いたり、自然の豊かさについて感じたり、生活を豊かにすることについて考えられるように工夫されている。

次に、「F光村図書」について説明する。付箋F①をご覧ください。絵本作家の親しみやすいイラストや表現により、児童の興味・関心を引き出している。「こんなこともあるかもね」という学びのヒントが児童の学習意欲の向上や新たな問いにつながり、主体的な学びを促している。また、巻末の図鑑が厚手で見やすく、取り外し可能で活動に生かしやすい工夫がされている。

次に、「G新興出版社啓林館」について説明する。付箋G①をご覧ください。SDGsへの具体的な取組が示されており、環境問題や食糧問題などの地球の問題を考えられるように工夫されている。また、どの単元も「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という三つの単元構成になっており、児童の思考に沿って追究していけるようになっている。

以上、7者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「A東京書籍」が採択案となっている。その理由としては、①児童が思いや願いをもって活動や体験を行う意欲を高めるような資料が充実している点、②浜松市のどの地域においても取り組むことができるように多様な活動が取り上げられている点、③多様な個の育ちや価値を生かし、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るためのスタートカリキュラムが充実している点の3点が挙げられる。生活科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 東京書籍の教科書には、浜松まつりの写真が紹介されているとのことだが、どの程度掲載されているのか。

(指導課指導主事) 浜松まつりの写真が1枚掲載されている。他自治体のイベントの様子が掲載されている中の一つとして浜松まつりが紹介されている。

(神谷委員) 教科書のイラストや写真の中に、外国の子供や車いすに乗っている子供が登場する。そういった点も採択理由の一つとなるのか。

(指導課指導主事) 選定委員会や研究委員会においても話題となった点である。多様性を意識して、外国籍の子供や障がいのある子供が登場する教科書が多く見られた。その中でも東京書籍は、外国籍の子供や障がいのある子供が登場するほか、家族の人数や役割、性別による偏りなく資料が表現されていたことは選定理由の一つとなったと聞いている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、生活科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。生活科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、音楽科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 音楽科では、2者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A教育出版」について説明する。付箋A①右下をご覧ください。題材ごとに、旋律や音色など、音楽を形づくっている要素を根拠とする学び方が「まなびナビ」として示され、児童が見通しを持って主体的に学ぶ支えとなる。我が国の伝統的な楽器や民謡などが取り上げられ、多様な音や音楽の美しさに触れることができるよう工夫されている。付箋A②③をご覧ください。楽器の奏法が写真で分かりやすく提示してあり、特に3年生以上は、巻末の見開き右側ページにリコーダーの運指表が掲載され、自分で運指を確認しながら学ぶことができるよう配慮されている。付箋A④をご覧ください。3ページにわたって、歌詞の情景と結び付く写真が用いられ、児童がそれぞれイメージを膨らませて音楽表現を工夫しやすく、音楽に対する感性を育むことができるようになっている。

次に「B教育芸術社」について説明する。付箋B①をご覧ください。「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」「つくる」の記号に分け、音色・強弱など、音楽を形づくっている要素を踏まえた学習活動が示されている。さらに、右下のように「まとめ」

として、振り返りの視点が示されている。「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を見通し、主体的に学ぶとともに、自己の学習を振り返り学びをつなげることができるよう構成されている。付箋B②をご覧いただきたい。抽象的な挿絵や図形楽譜が示され、楽曲に対するイメージを膨らませて、表現の仕方について思いや意図を持つことができるようになってきている。キャラクターによる学びのナビゲートは、思いや意図を言語化し、思考を深めることにつながる。付箋B③④をご覧いただきたい。低学年では身の回りの音を使った音遊び、中学年では地域の音楽、高学年では音楽の持つ力や役割、社会との関わりなど、生活や社会の中の音や音楽の働きについて発達段階に応じて発展的に学ぶことができる。音楽文化を継承、発展、創造していくための基本的な力を身に付けられるよう工夫されている。

以上、2者とも優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「B教育芸術社」が採択案となっている。その理由として、①各題材における学習活動や振り返りの視点の明示、②音楽を形づくっている要素を根拠とした対話的な学びの充実、③日本の音楽文化を継承、発展、創造していく力の育成の3点が挙げられる。音楽科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) どちらの教科書も全学年の教科書において国歌が掲載されている。教育芸術社は、一番後ろのページに君が代を掲載している。研究委員会ではこうした点について何か話題になったか。

(指導課指導主事) 研究委員会では、教育芸術社の教科書は、国歌がどのような場所で歌われているのか、どのような意義があるのかという点について、発達段階に応じた分かりやすい表現で掲載されているという話が出ている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、音楽科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。音楽科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、図画工作科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 図画工作科では、2者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A開隆堂」について説明する。付箋A①をご覧いただきたい。友達と話し合うことにより、自分の作品のよさに気付いたり、作品をよりよくしたり、アイデア

を思いついたりすることにつながる。このような、友達と試行錯誤しながらつくる題材が全体的に多く見られた。付箋A②をご覧ください。同じ材料を用いて次の題材で活用できたり、作った作品を用いて次時に鑑賞を行ったりするなど、学びのつながりを意識した題材の配列がなされている。次ページをご覧ください。墨で絵を描いた後、水墨画の鑑賞につなげることで学習の深まりが期待できる。

次に、「B日本文教出版」について説明する。付箋B①をご覧ください。対象や事象を捉える造形的な視点について、自分の感覚や行為を通して理解できるよう題材が設定されている。くぎの高さを変えたり、打ち込む角度を変えたりしながら金づちをリズムよく打ち、できる形の面白さを感じ取っている様子が、作品や生き生きと活動する児童の姿の写真から伝わってくる。安全に活動するために、ページの下に「気をつけよう」のコーナーを設け、児童が安全に活動できるよう配慮されているのも特徴である。付箋B②をご覧ください。詩や物語を読み、感じたことや思い浮かべたことを書き表している。教師にとって授業づくりがしやすくなるように、学習の投げ掛け、めあて、ヒント、振り返りが、紙面の中に分かりやすく配置されている。さらに、全ての題材において、評価を「知識」「技能」「表現」「鑑賞」「主体的に学びに向かう態度」の五つに分けて左上に示している。特に、大切なめあてについては、紙面中心にマークを付けて分かりやすく示している。これにより、児童、教師ともに、身に付けたい資質・能力を明確にして育成することができる。付箋B③をご覧ください。1・2年生のはさみの使い方について、一つ一つのイラストや文字が大きく、用具を使用するときに気を付けるポイントや安全面での配慮が分かりやすく説明されている。

以上、2者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「B日本文教出版」が採択案となっている。その理由として、①全ての題材で表現と鑑賞のめあてが明示されている点、②児童の創造性を高め、夢や願いを持って取り組むことができる題材の設定がされている点、③豊かな生活を創り出す態度を育む振り返りの視点がある点の3点が挙げられる。図画・工作科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、図画工作科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。図画工作科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、家庭科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 家庭科では、2者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。どの題材

も冒頭に「家庭科の窓」があり、生活の営みに係る見方・考え方のうち、この題材で働かせる二つの視点が示されている。また、「学習の流れ」が題材名の下側に3ステップで示され、見通しを持って取り組める内容になっている。次に付箋A②をご覧ください。配列は、内容相互の関連性から題材の組み立てを工夫することで題材数を減らし、2学年で15の題材に絞り、時間に余裕をもって取り組めるようにしている。付箋A③をご覧ください。文房具以外にも衣類や食品などにある表示マークを掲載し、発展的な内容を取り上げることで、児童が生活の中の次なる課題に挑戦できるようになっている。

次に、「B開隆堂」について説明する。付箋B①をご覧ください。ページの左側に「四つ葉のクローバー」があり、この題材で働かせる二つの見方・考え方が示されている。また「学習のめあて」が1・2・3の学習のステップごとに掲載されており、児童が学習を振り返りやすくなっている。次に付箋B②をご覧ください。ロボットそうじ機の開発に取り組む人が「キャリアインタビュー」に答えている。その仕事に込められた思いと生き方が伝わり、キャリア教育につながっている。付箋B③をご覧ください。表紙裏には、誕生から入学そして現在、中学生へとつながる学びや、他教科等との関連や系統性を意識しているのが分かる。また、次のページの目次を見ると、2年間を通して学びを少しずつ深めていけるように細かく題材が配列されている。付箋B④をご覧ください。2ページにわたるイラストからは、様々な人々の生活様式や社会の変化に気付き、共生社会への課題意識を高めるように工夫されている。

以上、2者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「B開隆堂」が採択案となっている。その理由として、①系統的に力を育み、小中のつながりを意識した構成となっている点、②キャリア教育が重視されている点、③多様な人々と共生していくことができる工夫がされている点の3点が挙げられる。家庭科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(神谷委員) 家庭科のカリキュラムの中で、料理や裁縫の他に情報機器の使い方など、学ぶ機会はあるのか。

(指導課指導主事) 情報に関しては、小学校では全ての教科で学んでおり、特に家庭科のカリキュラムに含まれているわけではない。例えば、炊飯器の使い方の手順などプログラミング的思考を取り入れた学びに関する内容は、家庭科の教科書に掲載されている。そういった意味では、プログラミングの意識を高める学習機会はある。

(神谷委員) 様々な教科ごとに機会を捉えて情報に関する内容を学ぶということではいか。

(指導課指導主事) そのとおりである。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、家庭科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。家庭科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、保健の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 保健では、6者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。毎時間の学習を四つのステップで構成することにより、学習の進め方が明確になり、児童が見通しを持って学習に取り組みやすい配慮がされている。付箋A②をご覧ください。児童が考えたことを記述するスペースが十分にあり、教科書をワークシートやノートとして活用しやすくなっている。

次に、「B大日本図書」について説明する。付箋B①、B②をご覧ください。毎時間の終末「活かそう」や単元末の「明日へつなげよう」では、学習内容を振り返るとともに、学んだことを自分の実生活にどのように生かしていくかを記述する項目が設定されていることで、学んだ考えを広げ、深めることができるように配慮されている。付箋B③をご覧ください。単元末の「もっと知りたい!」のコーナーでは、「人との関わり方」「感染症」「性の多様性」「ジェンダー」などの今日的な課題に関する情報が豊富に掲載されている。

次に、「C大修館書店」について説明する。付箋C①をご覧ください。「もっと学びを広げよう!深めよう!」では、今日的な健康課題を数多く取り上げており、写真やイラスト、図表を用いて分かりやすく提示されている。

次に、「D文教社」について説明する。付箋D①をご覧ください。単元末の「わたしの〇〇宣言」では、今後の自分の課題やそれについての友達の考えを記入する欄が設けられている。付箋D②をご覧ください。授業の流れが「Mission」「Stage」「Clear」「Com ページ lete」などと児童が親しみやすいゲームを連想させる言葉で表現されており、児童が興味を持って学習を進められるようにしている。

次に、「E光文書院」について説明する。付箋E①をご覧ください。「話し合おう」が多く設定されており、他者との関わりの中で、自分の考えを広げ深める協働的な学びを促す工夫がされている。付箋E②をご覧ください。自分と相手、双方の感じ方を大切にしたソーシャルスキルが具体的に紹介されている。また、情報モラルやSDGs、防災など今日的な課題に対応した情報が豊富に掲載されている。

次に、「F学研」について説明する。付箋F①をご覧ください。「心の健康」の単元では、不安や悩みを抱えたときの対処の仕方について3ページにわたり、具体的

な方法が例示されている。また、タブレット端末の使用やいじめ問題など、児童の日常生活と密接に関連した問題についても積極的に取り上げられている。付箋F②をご覧いただきたい。毎時間が4ページで構成されており、生活場面の中から健康課題を見つけ、解決方法を考えていくようになっている。また、毎時間の学習が「一人学び」「協働的な学び」「学びを生かす」の三つの構成になっており、児童の主体的・対話的で深い学びを促す工夫がされている。

以上、6者ともに優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「F学研」の教科書が採択案となっている。その理由として、①課題解決に主体的に取り組む工夫がなされている点、②コミュニケーションスキルを育む具体の例示がされている点、③学習の進め方の例示がされている点の三つが挙げられる。保健の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) これまで学研の教科書の採択はあったか。

(指導課指導主事) 平成27年度以降、どの教科においても学研の教科書の採択はない。

(安田委員) 学研の教科書には、新型コロナウイルス感染症に関する記述があったが、他の教科書でも同様の記述があるのか。

(指導課指導主事) 病気の予防という6年生の単元において、他の感染症とともに新型コロナウイルス感染症について掲載している教科書が多い。

(安田委員) もっと知りたいというコーナーで公衆電話の使い方を紹介するページがあったが、保健・体育の分野の内容なのか。研究委員会で話題になっているか。

(指導課指導主事) 研究委員会では特に話題に上がっていない。

(神谷委員) 5・6年生のこころの悩みの対処法が掲載されているのがよかった。いじめも含めて、様々な事例の悩みごとが具体的に掲載されているのは、子供にとって分かりやすいのではないか。また、相談窓口が大きく表示されていることも良い点だと感じた。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、保健の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。保健について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。次に、外国語科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 外国語科では、6者の教科書の研究結果を順に報告する。最初に、最初に「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧ください。コミュニケーション活動への準備や振り返りなど、学習の足跡を残すことができる書き込みスペースが豊富にある。付箋A②をご覧ください。語彙や表現をまとめた別冊があり、教科書に関連ページが示されている。コミュニケーション活動の際に手軽に参考にでき、豊富な語彙を生かして活動できるよう配慮がなされている。

次に、「B開隆堂出版」について説明する。付箋B①をご覧ください。他教科や今日的な課題との関連が単元の初めに明記されている。それを手掛かりにして児童は相互の関連を意識して学ぶことができ、教科横断的で実態に応じた学習を展開することができるよう工夫されている。付箋B②をご覧ください。「Let's Check」では、学期末に児童が学んだことについて、身に付けるべき技能を踏まえて確かめることができるようになっており、英語の身に付けた力を整理することができる。

次に、「C三省堂」について説明する。付箋C①をご覧ください。「STEP」の「Lesson 1」には、パノラマの絵が場面や状況を把握しやすいよう工夫して描かれているため、児童が場面のイメージをもったり、これから始まる単元の学習に対する意欲を高めたりするために、効果的なものとなっている。付箋C②をご覧ください。「Try」のページでは、一日の生活やドルを扱って買い物をするといった内容が扱われており、やり取りの流れが漫画になっているため、コミュニケーション活動のイメージが持ちやすくなっている。道案内については、5年生ではプログラミングと絡めて扱い、さらに6年生でも重ねて扱うなど、スモールステップで学習できるよう工夫されている。

次に、「D教育出版」について説明する。付箋D①をご覧ください。国語科の「お手紙」や道徳科の「はしの上のおおかみ」(5年)などの英語版が掲載され、自然に他教科等の学びが外国語でも生かされるようになってきている。付箋D②をご覧ください。世界の名所、名物マップに、イラストと文字が併記してあり、児童が自分の好きなものを選びやすく、コミュニケーション活動だけではなく、書く活動の際にも参考にできるよう工夫されている。

次に、「E光村図書」について説明する。付箋E①をご覧ください。見開きのページでの絵も含め、言語活動の目的・場面・状況が明確に設定されているため、児童は何のためにコミュニケーションをするのかを理解しやすくなっており、コミュニケーション活動へのイントロダクションが充実している。付箋E②をご覧ください。英語で受け答えをするときに役立つ表現が「Response」として紹介されていたり、発音のポイントが的確に示されていたりして、児童が話す力を発揮するための支援が工夫されている。

次に、「F新興出版社啓林館」について説明する。付箋F①をご覧ください。「コミュニケーションに大切なこと」のコーナーでは、会話を続けるため重要な視点を示

している。さらに巻末では、付録シートに会話を楽しむフレーズ集として必要な表現がまとめて掲載されており、児童がコミュニケーション活動に生かせるよう工夫されている。付箋F②をご覧いただきたい。各ユニットの中で語順等の文構造を扱っているため、児童は学びの中で意識して取り組むことができる。また、主語、動詞、目的語等が色分けされており、簡単で分かりやすくなっている。

以上、6者とも優れた教科書ではあるが、選定委員会では、「E光村図書」が採択案となっている。その理由として、①コミュニケーションの必要性を引き出す場面設定となっている点、②既習のセンテンスを変化させ、繰り返し活用する構成となっている点、③音声から文字への概念をつかむ上で有効な紙面の工夫がなされている点の3点があげられる。外国語科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(神谷委員) 中学校の英語科では「光村図書」の教科書を使用している。今回小学校の外国語科の教科書も「光村図書」を採択案としたのは、小中の学びの連続性という点を考慮して選定しているのか。

(指導課指導主事) 研究委員会では、マスキングをした状態で研究を進めるため、発行社はわからない状態で選定されている。学びの連続性という視点では、光村図書の6年生の教科書には、児童が1年間の学びを蓄積できる「All About Me」というポートフォリオのようなリーフレットがあり、中学校入学時の英語科授業の自己紹介で活用できると話題になったと聞いている。

(安田委員) 中学校で英語につまづいてしまう子の多くは「書けない」ことが理由だと聞いた。事前の勉強会では、東京書籍は書き込みスペースが豊富で、小学校のうちから「書けない」子にとって有効ではないか、という話があった。研究委員会でも同様の話題があったと聞いたが、その内容について再度説明してほしい。

(指導課指導主事) 研究委員会では、学習指導要領の目指す「書くこと」について議論があったと聞いている。小学校では、「書くこと」で身に付けさせたい力は、アルファベットの大文字と小文字が正確に書けること、音声で十分に聞いたり話したりして慣れ親しんだ基本的な語句や表現を書き写すことができること、例文がある状態で参考に書くことができることである。なぞり書きをしたり、写し書きをしたりして親しむことを目指している。「書くこと」により、英語への苦手意識を高めてしまう例もこれまでの課題として見られた。その点、光村出版は児童が段階的に慣れ親しんでいける適当な分量・配列だと報告を受けている。

(安田委員) 今年度までは東京書籍の教科書を使用していたと思うが、書き込みは児童にとってやや負担だったということか。

(指導課指導主事) 研究委員会からは、今回の改訂により東京書籍の教科書は、現在使用している教科書よりも書き込みスペースが増えた印象を受けたと聞いている。今回採択案とした光村図書は、書くことに対するこれまでの課題に照らしながら、児童がゲーム感覚で英語に慣れ親しんでいけるような内容となっていると報告を受けている。

(神谷委員) 小学校では、文法は習わないということか。単語や例文をそのまま使えば、過去形や現在形など場合にに応じて単語が活用するといった指導は行わないのか。

(指導課指導主事) 学習指導要領の取扱内容では、文法やその用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で使用する表現を活用できるようになることに重きを置いている。自分が伝えたいことや、気持ち、考えを伝えるために、話したり聞いたりして習得していくことが求められている。

(神谷委員) 中学校に入ると途端に文法が始まり、難しくなるという声を聞く。小学校と中学校の間でギャップが大きいのではないかと。

(黒柳委員) アルファベットを認識させるという点では、現在使用している東京書籍の教科書も優れていると感じる。小学校でも基本的なことは学んでほしいと感じるが、書く分量が多くなるというのは、初めて習う子供にとって負担が大きいのではないかと。また、小学校の外国語科では日本語を使わずやり取りする内容が多いと聞いた。外国語の聞き取りができる子とできない子の間でも差が生まれてしまうため、苦手意識を高めないための工夫も必要だと感じる。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、外国語科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。外国語科について、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。最後に、道徳科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 道徳科では、6者の教科書の研究結果を順に報告する。

最初に、「A東京書籍」について説明する。付箋A①をご覧いただきたい。2年生からは、「ちょっと話し合ってみよう！」という教材を設け、対話的な学習を通して、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる工夫がされている。付箋A②をご覧いただきたい。いじめに関して、6年生では、「いじめ防止対策推進法」5年生では、

「子どもの権利条約」について学ぶ教材を扱うことで、社会全体で取り組むべき課題であることを意識することができる。

次に、「B教育出版」について説明する。付箋B①をご覧いただきたい。教材ごとに、自己評価する枠が全学年を通して設けられている。自己評価を習慣化することによって、児童が道徳の学習で大切にしたいことを意識することができる。また、問題解決的な学習が全学年において提示されており、より実感を伴った学びが実現できるよう工夫されている。付箋B②をご覧いただきたい。「いじめ」を扱う教材においては、SNSの不適切な活用が「いじめ」に直結してしまうような、現代的な課題について扱っており、児童が自分のこととして考えることができる。

次に、「C光村図書」について説明する。付箋C①をご覧いただきたい。1年生の「どうとくがはじまるよ」では他の教科の土台ともなる「思ったことを話す」「互いの考えを聞く」といった学ぶ上での内面的な心構えや、「相手を見る」「聞こえるように話す」といった技能的な留意事項も取り上げている。付箋C②をご覧いただきたい。2年生以上には「みんなで気持ちよく話すためのコツ」を取り入れ、友達の意見と自分の考えを比較しながら、多面的・多角的に考えることができる。付箋C③をご覧いただきたい。目次には、どの学年でも三つの分類が示されている。例えば6年生ではご覧のような分類がされているが、1年生では、「みんなと仲良くするって」「周りの人と仲良くね」「みんなで一緒に」と発達段階に合わせた光村図書独自の分類の仕方で、これからの社会を生き抜く子供たちにとって必要な力を児童の視点で捉え直したものとして特徴的である。

次に、「D日本文教出版」について説明する。付箋D①をご覧いただきたい。児童が考え、話し合いたくなるような魅力的な教材が多く扱われている。特に「アスリートの言葉」では、東京オリンピックで活躍した選手たちの言葉が競技写真とともに掲載されており、児童の関心をひくことが期待できる。別冊ノートの付箋D②をご覧いただきたい。道徳ノートがついており、1年間の学びの足跡を一冊にまとめて残すことができる。それにより、児童が自身の成長をより実感できると考えられる。また、保護者に見せるなどして、学校と家庭の連携を図ることができる。

次に、「E光文書院」について説明する。付箋E①をご覧いただきたい。全学年他者より多い40教材ある。そのため、各校の重点目標や児童の実態に応じて教材を選択し、年間指導計画を工夫して作成することができる。付箋E②をご覧いただきたい。全学年に「いじめ」「命」が重点教材として設定されている。特に浜松市の重点項目である「生命の尊さ」を扱った教材は、三から四つと多く、手厚い指導が可能になる。

次に、「F学研」について説明する。付箋F①をご覧いただきたい。巻頭の「つながる私 広がる私」では、様々な人・もの・こととのつながりを意識し、今の自分を見つめることができる。巻末の「つなげよう 広げよう」では、1年間の道徳の授業を振り返ることにより、これまでの学びを次の学年に生かすことができる。付箋F②をご覧いただきたい。教材の後に掲載されている「心のパスポート」などを活用することで、疑似体験や振り返りを基に、自分のこととして考えることができる。

以上、6者とも優れた教科書ではあるが、選定委員会では、C光村図書が採択案となっている。その理由として、①深い学びに導くための発問例が優れている点、②定

番教材、有名絵本作家による作品、写真、漫画など、表現方法が豊富で、魅力的な教材が詰まっている点、③浜松市の研究の観点である、いじめ問題、情報モラルといった現代的な課題について低学年から教材とコラムを合わせた構成で考えられる点の3点が挙げられる。道徳科の調査研究結果の報告は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 光村図書の教科書では、「いじめ」という言葉が使われている学年と使われていない学年があるようだが、他の教科書の取扱いはどうか。

(指導課指導主事) 全学年ユニット教材として「いじめを許さない心」という二つの教材と一つのコラムで重点をおいて扱っていることが特徴的である。いじめの場면을直接扱う直接教材と、いじめをなくす心を育むために必要な善悪の判断、公正・公平、社会正義といった内容項目を学ぶ間接教材が、発達段階に応じて配置されていると聞いている。

(安田委員) 子供たちの受け取り方として国語科との違いをどう考えるか。選考の結果ではあるが、国語科と道徳科が同じ教科書会社を採択している。

(指導課指導主事) 国語科と道徳科は同じ読み物教材であるため、授業者がそれぞれの教科の見方・考え方をしっかり働かせることが重要である。光村図書の教科書は、発問が道徳科の特質に応じた学習が可能となるような、優れた発問例が示されており、国語科と区別した学習が展開できると報告を受けている。

(教育長) その他ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、道徳科の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。道徳科について、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは採択することとする。以上で、本日の教育委員会を終了する。